News Release

2025年6月19日
SCSK株式会社

クラウドネイティブなデータ統合でリアルタイム性の高いデータ活用を実現する「NebulaShift di」の提供を開始

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役　執行役員　社長:當麻　隆昭、以下　SCSK)は、クラウドネイティブ※1なデータ統合オファリング「NebulaShift di(ネビュラシフト　ディーアイ)」を2025年6月19日より提供開始します。「NebulaShift di」は、「NebulaShift」※2をデータ統合の領域へと拡張したサービスです。クラウドネイティブアプリケーションに対応したリアルタイムなデータ連携と分析により、データドリブンかつ迅速な意思決定を支援します。

※1 システムやアプリケーションをクラウドの利点を最大限に活かして設計・開発・運用するアーキテクチャのこと

※2 クラウドネイティブなアプリケーション開発/実行環境の設計・構築・運用、およびアジャイル開発への移行を支援するSCSKのサービス

1. 背景

企業はデータを重要な経営資源として活用し、業種を問わずデジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みを進めています。しかし、従来のデータ基盤ではデータが部門ごとに隔離され、管理が複雑化し、データ・ガバナンスが低下することがあります。調査では、DXで「成果が出ている」と回答した企業は、「成果が出ていない」と回答した企業に比べ、全社的にデータを活用している割合が約14%高いことが分かっています。これにより、全社でのデータ利活用がDX成功の鍵であることが示されています。※3

データの価値を最大限に引き出すためには、必要なデータを適切なタイミングで提供するデータ統合基盤が必要です。また近年では、データ量の増加やAIなど新技術の進展により、より柔軟で拡張性のあるデータ基盤が求められています。こうしたニーズに応えるべく、SCSKはクラウドネイティブおよびデータ統合の専門知識を活かして「NebulaShift di」を立ち上げました。

※3 DX動向2024(独立行政法人　情報処理推進機構)
https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/dx-trend-2024.html

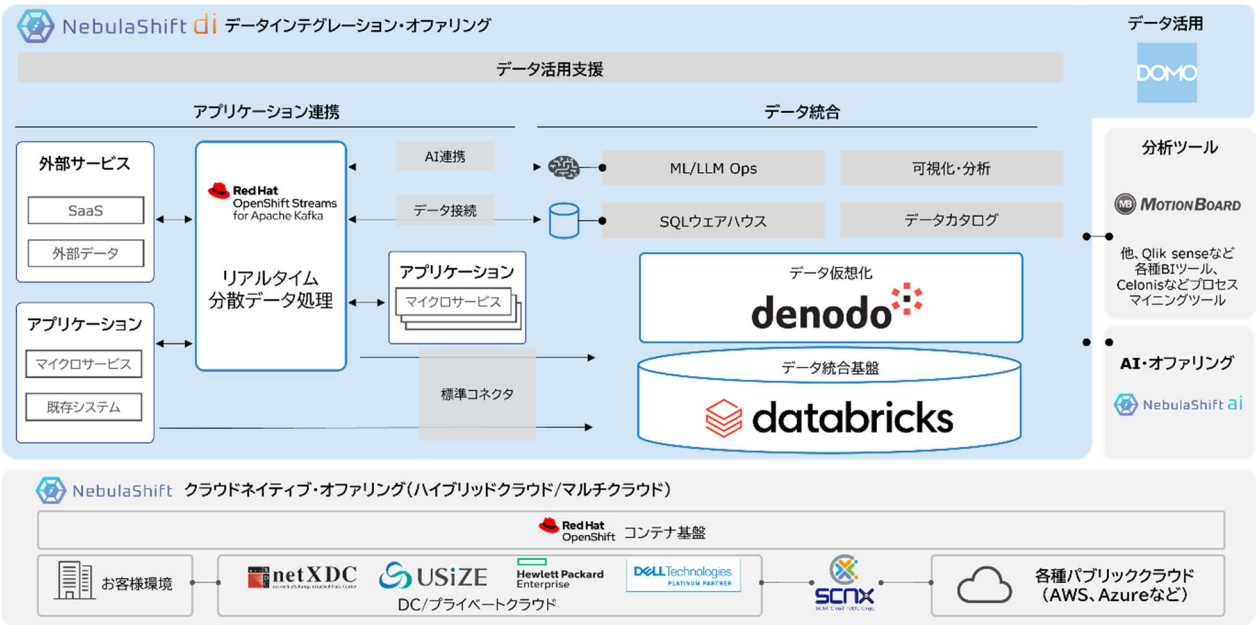
2. NebulaShift diとは

「NebulaShift di」は、クラウドの特長である柔軟で拡張しやすい構造を活かしたデータ統合基盤を、お客様の環境や課題にあわせてオファリング型で提供するサービスです。データ連携・収集、加工・蓄積、可視化・分析といったデータ活用に必要な機能を包括的に提供し、データサイロの解消、迅速なデータ活用、データに基づく意思決定の促進を実現します。

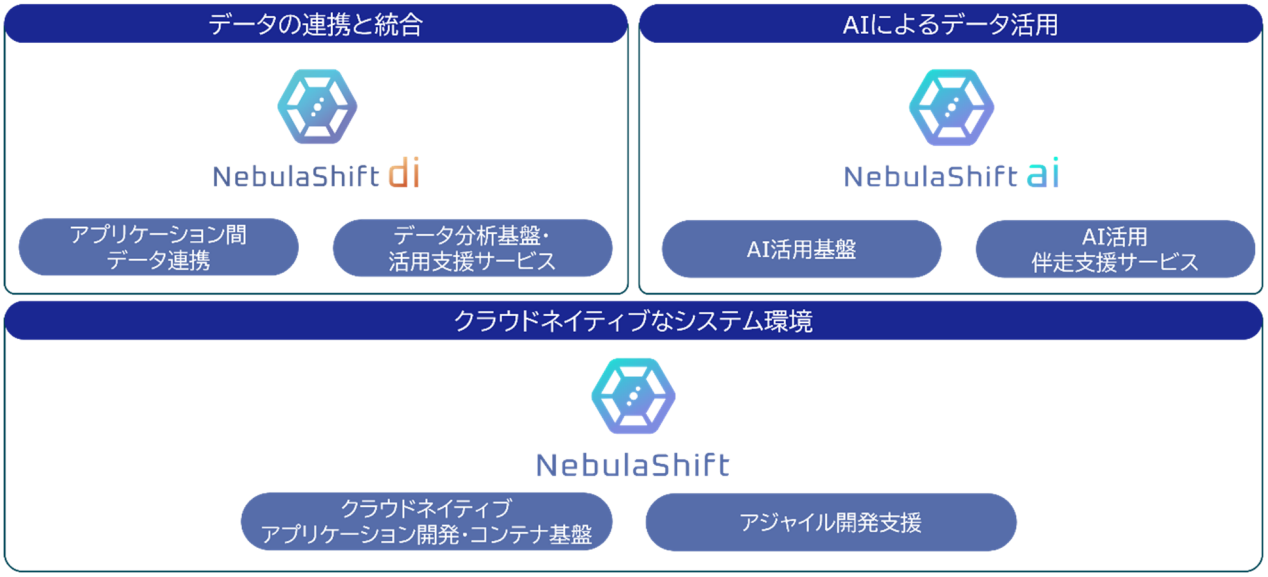
さらに、「NebulaShift di」は、SCSKのクラウドネイティブ・オファリング「NebulaShift」や AI 基盤サービス「NebulaShift ai」※4 におけるデータ連携やデータ統合基盤の役割も担うことで、各サービスにおけるアプリケーション間連携の簡素化やより多様なデータの AI 連携を可能とします。
従来の個別システム開発と違い、「NebulaShift」シリーズでは標準化されたサービスをメニュー単位で提供する為、迅速かつ高品質な技術支援を低コストで実現しています。

※4 AI 基盤、AI 導入コンサルティング、構築、運用までを支援するSCSKのサービス

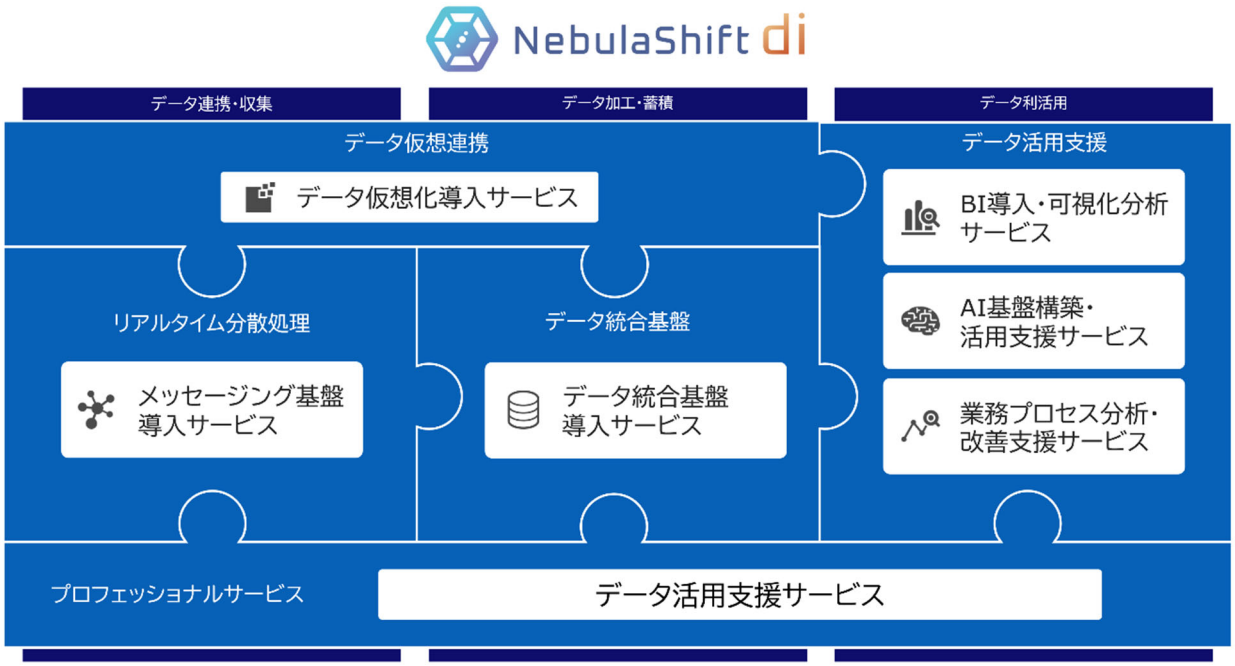
「NebulaShift di」構成図



「NebulaShift」各シリーズの役割



「NebulaShift di」オファリング型メニュー



具体的には、以下 3 つの要素をオファリング型メニューとして提供します。

- **データ連携・収集**

  オンプレミス環境を前提とした従来のアプリケーションに加え、マイクロサービス等、コンテナ技術を活用したクラウドネイティブアプリケーションへ対応したデータ連携基盤を提供します。API 管理やデータ変換、イベント駆動型データ連携の機能を包括的に提供することで、連携基盤のモダナイズや、データのリアルタイム連携を実現します。
  また、データ収集方法としては、インテリジェントコンテンツ管理プラットフォーム「Box」をはじめとした SaaS 連携、メッセージング基盤を介したリアルタイム収集など多様な接続方式が選択できます。

  ■メニュー例
  ・メッセージング基盤導入サービス

- **データ蓄積・加工**

  お客様の求めるデータ活用の将来像に合わせて、データウェアハウスやデータレイク、データ仮想化など最適な方式を提案します。クラウドの柔軟性を最大限活用することで、事業の成長に合わせたスケーラビリティを発揮します。リアルタイム性の高いデータ連携と ETL（抽出・変換・ロード）処理を組み合わせることで、事業スピードに応じたデータ活用を可能とします。

  ■メニュー例
  ・データ仮想化導入サービス
  ・データ統合基盤導入サービス

- **データ分析・活用**

  多くの期待を集める生成 AI や AI エージェントをはじめとし、機械学習モデルの実装、ビジネスインテリジェンス（BI）によるデータ可視化、データ分析の効率化やデータ品質の担保、プロセスマイニングによる業務プロセス分析など、お客様の活用テーマや業務課題に応じて最適なメニューを提供します。
  データサイエンティストやコンサルタントによる伴走型支援と各種システム基盤をワンストップで提供します。

  ■メニュー例
  ・AI 基盤構築・活用支援サービス
  ・BI 導入・可視化分析サービス
  ・業務プロセス分析・改善支援サービス

これらを一貫して提供することにより、データ利用者はビジネス現場で発生したデータをリアルタイムに捉え、データを元にした迅速な意思決定が可能になります。

3. 売上目標

2028 年度末までに、「NebulaShift di」関連事業において売上 50 億円を目指します。

4. 各社からのエンドースメント

■ドーモ株式会社

データ統合基盤の分野で高い実績を誇る Domo との連携により、Nebulashift di の価値は一層強化されます。Domo の直感的なダッシュボードと豊富なデータ連携機能を組み合わせることで、現場から経営層まで誰もがデータに基づく判断を迅速に行える環境を実現します。
Nebulashift di と Domo の協業は、単なるデータ可視化を超えた、真のデータドリブン経営への大きな一歩です。変化の激しいビジネス環境において、持続可能で俊敏な成長を支える中核ソリューションとして、両者のシナジーは極めて高く、今後の展開に大きな期待が寄せられます。

プレジデント ジャパンカントリーマネージャー 川崎 友和

■レッドハット株式会社

SCSK がクラウドネイティブアプリケーション開発における開発者の生産性向上に必要な API 管理、データストリーミングその他の重要な機能を提供するため、Red Hat OpenShift と Red Hat Application Foundations を選択されたことを嬉しく思います。NebulaShift di を通じたSCSK様との連携・協業により、アプリケーション・データの構築や統合の迅速化を追求するお客様のビジネス機会拡大に寄与したいと考えております。

代表取締役社長 三浦 美穂

■Denodo Technologies 株式会社

前回の「NebulaShift ai」に続き、このたびの発表も心より歓迎申し上げます。データ活用を推進していく上で、部門横断的・全社的なデータ統合基盤の整備は有効です。

さらにハイブリッド・クラウド/マルチクラウドに対応し、迅速かつ柔軟なデータアクセス、また高いレベルでのセキュリティやガバナンス、信頼性の高いデータ提供といった機能を兼ね備えていることも重要です。
Denodo は、論理的データ管理アプローチを用い、SCSK様とともに、多くのお客様に最適なデータ統合基盤を提供し、ビジネスの成長を支援してまいります。

リージョナル・バイスプレジデント兼ゼネラルマネージャー・ジャパン　中山 尚美

＜協賛パートナー様＞

■ウイングアーク1st株式会社

SCSK 様のクラウドネイティブなデータ統合基盤「NebulaShift di」の発表を心より歓迎いたします。
全社に蓄積されたデータの価値を最大化することは、今や企業競争力向上の鍵となっています。深い知見と高度な技術力をもってデータ活用を支援される「NebulaShift di」は、変化の激しいビジネス環境下でも、お客様のニーズに応じた柔軟なソリューション提案により、確実に課題解決へ導くものと期待しております。
また、BI ダッシュボード「MotionBoard」は、データの可視化にとどまらず入力機能を備えた業務アプリケーションとしてもご活用いただいており、製造業・金融業・小売業など幅広い業界で高い評価を得ています。
「NebulaShift di」との連携によって、全社・多拠点におけるデータ活用をさらに推進し、お客様の新たなビジネス機会創出や価値創造に貢献してまいります。

ウイングアーク1st株式会社 執行役員 CSO　森脇 匡紀

■株式会社 Box Japan

この度の発表を心より歓迎いたします。
昨今のビジネス環境では、構造化データのみならず非構造化データも含めたデータ活用が持続的な成長の鍵となります。この度発表された NebulaShift di との連携により、Box に保管された非構造化データがより容易に分析可能な形に統合され、ビジネス上の課題解決や新たな価値創造に貢献することを期待しております。
両社の連携を通じて、お客様のデータドリブンな組織への変革を支援してまいります。

社長執行役員　佐藤 範之

※会社名を五十音順・アルファベット順で記載しております

5. セミナーのご案内

本サービスの提供開始に伴い、7 月末頃にセミナーを開催予定です。詳細については、確定次第SCSKコーポレートサイト上でご案内します。

SCSKグループ技術戦略

SCSKグループは、「共創 IT カンパニー」の実現に向けた取り組みを加速するための、技術戦略「技術ビジョン 2030」を推進しています。「技術ビジョン 2030」では、先進デジタル技術の最大活用による事業構造の変革（デジタルシフト）や生成 AI の活用による飛躍的な生産性向上の実現を目指すとともに、蓄積してきた知財を活用した製品・サービス開発を推し進め、お客様や社会、生活におけるさまざまな課題解決に対応していきます。

・SCSKグループ技術戦略「技術ビジョン 2030」
https://www.scsk.jp/sp/technology_strategy/index.html

SCSKグループのマテリアリティ

SCSKグループは、経営理念「夢ある未来を、共に創る」の実現に向けて、社会と共に持続的な成長を目指す「サステナビリティ経営」を推進しています。
社会が抱えるさまざまな課題を事業視点で評価し、社会とともに成長するために、特に重要と捉え、優先的に取り組む課題を7つのマテリアリティとして策定しています。
本取り組みは、「豊かな未来社会の創造」に資するものです。
－柔軟で拡張性のあるデータ統合基盤の提供により、高度なデータ利活用を実現
－データに基づく、迅速な意思決定の促進や新たなビジネス機会/価値創出を支援
・SCSKグループ、経営理念の実践となる 7 つのマテリアリティを策定
https://www.scsk.jp/corp/csr/materiarity/index.html

本件に関するお問い合わせ先

【製品・サービスに関するお問い合わせ先】
SCSK株式会社
IT インフラサービス事業グループ
IT インフラ・ソフトウェア事業本部 データ・ミドルウェア部 NebulaShift di 担当
E-mail: nebulashiftdi-info@scsk.jp

【報道関係お問い合わせ先】
SCSK株式会社
サステナビリティ推進・広報本部 広報部 岡本
TEL:03-5166-1150

※ 掲載されている製品名、会社名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。(出願中含む)